

评审简表

申报单位（盖章）： 申报人姓名：张敏 语种：日语 拟评资格：一级笔译 审核人签字：

一、基本情况及主要经历

姓名	张敏	性别	女	出生年月	1991/03/02	参加工作时间	2018/02/01	现行政职务	无	
最高学历	硕士	毕业学校	天津外国语大学		所学专业	日语口译	毕业时间	2018/03	学位	翻译硕士
现专业技术职务（资格）	中级	取得时间	2020/03		同级专业技术职务取得时间		从事本专业年限		6.5年	
专业技术工作起止时间	工作单位			从事何种专业技术工作		取得何种专业技术职称	取得职称时间			
2021年7月~至今	自由译者			翻译		二级笔译	2020年3月			
2019年8月~2021年7月	奥林巴斯（北京）销售服务有限公司（全职）			日本医疗器械注册及翻译		二级笔译	2020年3月			
2019年8月~2021年8月	北京深度制耀科技有限公司（兼职）			翻译		二级笔译	2020年3月			
2018年2月~2019年8月	瑞萨半导体（北京）有限公司（全职）			翻译						
年 月~ 年 月										

注 1：审核人请在首行签字并在表首加盖公章。

注 2：“同级专业技术职务及取得时间”是指由其它专业技术职务转评为翻译专业技术职务人员，其原专业技术职务取得时间。

二、任现职（取得现资格）以来的工作业绩

1. 承担重点项目情况

序号	重点项目名称	本人负责部分	级 别			项目进行时间	出版单位及时间	完成情况及效果
			地市级	省部级	国家级			

2. 获奖情况（填地市级一等奖，省部级一、二等奖，国家级一、二、三等奖）

序号	获奖题目	奖项名称	获奖级别及等级	颁奖单位	获奖时间	本人承担内容

三、任现职（取得现资格）以来完成工作任务情况

审定稿字数（万字）	
<p>本人任现职以来完成的工作情况分为四个方面：全职翻译、兼职翻译、图书翻译和自由译者，具体工作内容如下：</p> <p>一、全职翻译（2019年8月-2021年7月）：就职于奥林巴斯（北京）销售服务有限公司，负责日本已上市医疗器械在中国的注册及相关翻译工作，因准确、有效地完成翻译任务，缩短了注册过程，帮助公司取得了30余张进口医疗器械注册证书，有效推进了公司在中国的医疗器械销售业务。</p> <p>二、兼职翻译（2019年8月-2021年8月）：作为北京深度制耀科技有限公司的兼职译员，负责医学论文翻译，每次都保质保量的完成翻译任务。</p> <p>三、图书翻译（2020年3月至今）：完成了5本图书的翻译工作，其中3本已经出版，其余2本预计明年出版。已出版的译著分别为《广域规划和区域可持续性发展》（合译，2020年9月第一版，江苏凤凰科学技术出版社）；《漫画家大课堂 线条与阴影》（独译，2021年3月第一版，江苏凤凰美术出版社）；《当春病了的时候》（独译，2023年4月第一版，艺力国际出版有限公司）。</p> <p>四、自由译者（2021年7月至今）：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 与出版社和翻译公司合作，翻译图书及稿件。目前已完成翻译尚未出版的译著1本，总翻译量超过50万字。2. 作为清大华心（北京）生态科技有限公司（美愈物理出版屋）的翻译顾问，参与图书翻译及审校、稿件翻译等。 目前已出版译著1本，待出版译著1本。3. TED 字幕翻译及审校，目前已上线的视频字幕约为40部。	

四、任现职（取得现资格）以来发表、出版的译著（文）或论文

序号	译著（文）或论文题目	出版、发表在何处	作品字数（万）	发表时间	独（合）译	本人在合译中所承担部分及字数（万）
01	《广域规划和区域可持续性发展》	江苏凤凰科学技术出版社	14 万字	2020/09	合译	第 5、6、7、8 章及后记，共 10 万字
02	《漫画家大课堂 线条与阴影》	江苏凤凰美术出版社	6 万字	2021/03	独译	
03	《当春病了的时候》	艺力国际出版有限公司	0.2 万字	2023/04	独译	

五、出国进修情况

进修起止时间	国 家	内容及专业
2017年4月~2017年9月	日本	在东京城西国际大学研究生院交换留学，专业为日语及商务设计。
年 月~ 年 月		
年 月~ 年 月		

六、国内进修情况

进修起止时间	进修内容及专业
2015年9月~2018年3月	就读于天津外国语大学高级翻译学院日语口译专业
2009年9月~2013年6月	就读于天津外国语大学国际传媒学院教育技术（日语方向）专业
年 月~ 年 月	
年 月~ 年 月	

七、出国工作情况

工作起止时间	任务
年 月~ 年 月	
年 月~ 年 月	
年 月~ 年 月	
年 月~ 年 月	

八、单位推荐意见（1000 字左右）

单位负责人签字：	单位：（盖章）
	年 月 日

注 1：本页必须加盖单位公章。

注 2：“单位推荐意见”主要按照《翻译专业人员职称评价基本标准》中相应等级任职条件的要求对申报人的水平、业绩给予评价和推荐。

翻訳の本質へ

翻訳は他の多くの職業と同様、経験の積み重ねが不可欠です。翻訳資格を取得しただけでは、優れた翻訳者になるには十分ではありません。私自身の経験を振り返っても、2級翻訳資格を取得し、初めて出版社から書籍の翻訳を依頼されてから今までの8年間で、さまざまな経験を重ねてきました。最初に手掛けた翻訳作品を見返すと、未熟な部分が目立つ一方で、長い時間と経験を経て始めて気づける翻訳技術の進化も感じています。経験を積み重ねるほど、翻訳の本質についてより深く考えるようになりました。この機会を通じて、近年私が感じた翻訳に関するいくつかの考えをお伝えしたいと思います。

翻訳の目的とは何か？

まず考えるべきは、翻訳の目的です。翻訳の目的は、翻訳そのものではなく、原文が伝えたい情報を正確に伝達することにあります。したがって、翻訳の前提として、原文を正確に理解することが不可欠です。これは日中いずれの言語でも同じで、正確に理解した上で翻訳作業に入ることが求められます。

しかし、原文を正確に理解することは決して容易ではありません。特に文学作品においては、その難しさが際立ちます。場合によっては、数回、数十回、さらには100回と読み返す必要が出てくることもあります。「書は百遍読めば、意味が自然と現れる」

という名言は、翻訳において非常に重要な指針だと感じています。

私が翻訳業務を始めた頃、原文の真の意味を深く掘り下げる前に、急いで訳文を仕上げようとすることが多くありました。これはおそらく、多数の通訳初心者に共通する課題だと思います。しかし、経験を積むにつれて、翻訳に取りかかる前に必ず十分な分析と考察を行うようになりました。誤解や勘違いを避け、適切な表現を選ぶことへの配慮が強くなったからです。翻訳の失敗を恐れるようになったとも言えます。

慎重に考え、丹念に訳文を仕上げるのが、翻訳者としての大きな責任であると改めて実感しています。

情報を正確に伝えるための言語力——真の翻訳技術

次に重要な課題は、正確に理解した原文の情報をどのように的確に訳文に変換し、読者が原文の読者と同じ情報を受け取れるようにするか、という点です。これは言語力に関わる問題です。もし中国語で正確に表現できないならば、中国語の能力が不足していると言えますし、逆に日本語で正確に表現できないのであれば、日本語の能力が不足していることになります。

文学的な素養は長い時間をかけて培われるものであり、優れた翻訳者は優れた書き手でもあると言えるでしょう。そのため、普段から翻訳技術の向上に努めるだけでなく、質の高い本を読み、

優れた表現を心に刻み、自ら文章を書いて磨き上げることも、翻訳者として重要な取り組みの一環とされています。

具体例を通じた説明

ここでは、星新一の『学問の自由化を』と、蕭紅の『孤独的生活』から抜粋した例文を用いて、日中・中日翻訳における「原文の意図を汲み取ること」と「原文の意図を的確に伝えること」という二つの問題について説明します。

1. 原文の意図を汲み取る

例 1: 題名「学問の自由化を」の翻訳について

一見すると、この題名は「学術的自由化」と直訳しやすいですが、本当に「自由化」で良いのでしょうか？まず、「自由化」という日本語の意味を正確に理解する必要があります。「学問の自由」と「学問自由化」の違いも考慮しなければなりません。『日本大百科全書』によれば、「学問の自由」とは「真理探究のための活動において、他者からの干渉や制限を受けない自由」を指します。また、「自由化」という言葉は、一般的には政府の統制から解放される状態を意味し、特に社会・経済政策の分野で使用される用語です。

「学問の自由化を」を「学術的自由化」と直訳することは誤りではありませんが、「学術自由」と混同される恐れがあります。本文では大学を株式会社化する議論がされているため、「自由

化」よりも「商品化」や「市場化」と翻訳する方が、文章の主旨に適していると言えるでしょう。また、原文の題名には動詞が省略されていますが、訳文に隠された動詞を補い、「实现学术“商品化”」と訳すことで、真の意図をよりの確に表現できるでしょう。

例2: 「现在下着雨，桌子上面的书，除掉《水浒》之外，还有一本胡风译的《山灵》，《水浒》我连读也不想读，至于《山灵》，就是抱着我这一种心情来读，有意义的书也读坏了……读完了《山灵》上《声》的那篇，雨不知道已经停了多久了……我感到了蓝色灯光的不足，于是开了那只白灯泡，准备再把《山灵》读下去。我的四面虽然更静了，等到我把自己也忘掉了时，好像我的周围也动荡了起来。天还未明，我又读了三篇。」

この文章は蕭紅の『孤独的生活』からの抜粋です。蕭紅が日本に住んでいた頃の孤独感を描写している作品です。最後の一文「天还未明，我又读了三篇」をどのように解釈するかが重要なポイントです。「夜が明けていないので、さらに三篇を読んだ」と解釈するか、「三篇を読み終えた時、まだ夜が明けていなかった」と解釈するかを慎重に考える必要があります。前者の解釈では、長い夜の中で感じる作者の孤独な心理状態が十分に反映されないため、後者のように訳す方が、より正確だと言えるでしょう。

2. 原文の意図を的確に伝える

例1:現在の学校法人というものは、どことなく曖昧な存在なのである。だれのものやらさっぱりわからず、責任と権限の基盤もぼやけている。

もちろん、この原文の意図を理解すること自体は難しくありませんが、どうすれば自然で簡潔な中国語に訳すかがポイントです。「当前，学校法人似乎是一种暧昧的存在，完全不清楚谁是法人，责任和权限的基础也不明确」に直訳すれば誤訳ではありませんが、理想的な訳文とは言い難いと感じます。そこで、訳文を練り直し、簡潔な表現や中国語でよく使われる四字熟語を用いることで、より自然で洗練された訳文に仕上がりに、原文の意味も十分に伝わるのではないかと思います。

洗練された訳文:「当前，学校法人界定模糊，属性不明，权责不清。」

例2: 順調な時はそれでよいが、混乱が生じると弱点が露呈する。態度が弱腰になり、責任が曖昧になり、裏で陰謀めいたことが進行するのである。

この例でも、「混乱が生じる」「態度が弱腰になり」「責任が曖昧になり」「裏で陰謀めいたことが進行する」をどのように訳すかがポイントです。まず、「混乱が生じる」を分析する必要があります。これは前の「順調な時」の反対であり、すなわち「秩序

が乱れる」という意図を表しています。そのため、「局面产生混乱」よりも「局面开始失控」の方が自然な表現になるでしょう。

また、ここで強調したいのは、中国語の「勾心斗角」がすでに「裏で」という意味が含まれているため、「暗地里勾心斗角」と訳すと意味が重複してしまう点です。したがって、簡潔に「勾心斗角」と訳す方が、中国語らしく、全体の流れも自然になるでしょう。

洗練な訳文：「学校顺风顺水之时尚且无碍，一旦局面开始失控，态度消极、模糊责任、勾心斗角等问题便会暴露无遗。」

例3：「天明之前，我听到蚊虫在帐子外面嗡嗡嗡嗡地叫着，我想，我该起来了，蚊虫都吵得这样热闹了。」

この例文について、説明したい点が二つあります。まず一つ目は、「蚊虫在帐子外面嗡嗡嗡嗡地叫着」にある「叫着」という動詞についてです。これをそのまま「蚊がブンブンと鳴いている」と訳すべきか、それとも「蚊がブンブンと飛び回っている」と訳すべきかを検討しました。慎重に考えると、「蚊がブンブンと飛び回る」と訳す方が、より自然な日本語表現だと考えます。

二つ目は「蚊虫都吵得这样热闹了」の訳し方についてです。ここでの中国語の「热闹」は「賑やか」と訳せるかどうかを検討しました。「賑やか」という言葉は「物音や人声などが盛んで、陽気で活気がある様子」を指し、良い意味を含んでいます。しか

し、この場合は蚊の音が大きくてうるさいという意味です。そのため、「蚊がこんなにも騒がしくしている」と訳す方が、より適切だと考えます。

上記の例文を次のように訳してみました。

「明け方前、蚊が蚊帳の外をブンブンと飛び回る音が耳に入ってきた。この様子では、そろそろ起きなければならないと思った。蚊がこんなにも騒がしくしているのだから。」

例4：「于是穿起衣裳来，去吃中饭。经过华的门前，她们不在家，两双拖鞋摆在木箱上面。」

この例文を用いて説明したいのは、訳文の流れをどのように整理するかという点です。「她们不在家，两双拖鞋摆在木箱上面。」を訳す際に、逐次的に「彼女たちは不在のようで、二足のスリッパが木箱の上に置いてあったのだ。」と訳すか、それとも「二足のスリッパが木箱の上に置いてあり、彼女たちは不在のようだった。」と訳すかを考える必要があります。より自然な流れで読めるように、訳文の構成を慎重に考慮しなければなりません。したがって、この場合は後者の方が、読者にとって理解しやすいでしょう。

この例文を次のように訳してみました。

「そこで、服を着替えて昼ごはんを食べに行くことにした。華の家の前を通ると、二足のスリッパが木箱の上に置いてあり、彼女たちは不在のようだった。」

結論

以上の例文に対する分析はほんの一部に過ぎませんが、伝えたいのは、翻訳が単なる言語の置き換えではなく、異なる言語間で意味や感情を正確に伝えるコミュニケーション技術です。翻訳者は原文の表面的な言葉に囚われることなく、その背後にある意図を理解し、それを自然で適切な形で伝えることが求められます。額面通りの翻訳を超えて、意味の伝達を重視した翻訳を行うことで、読者に本来のメッセージを的確に届けることができます。

もちろん、これには豊富な翻訳経験の積み重ねが必要ですが、最初から翻訳の本質を常に意識し、言葉ごと、文章ごと、さらには書籍ごとに、作者の意図を十分に汲み取り、適切に伝えることが大切です。この姿勢を持って取り組むことで、翻訳者としての成長も一段と早く早まるでしょう。